
ある猫の話

純

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある猫の話

【Nコード】

N82130

【作者名】

純

【あらすじ】

ある町のある猫のはなし

絵本な感じを目指してみました。

（前書き）

初めての投稿するお話です。

読みにくいかもしれませんが、楽しんでもらえたら嬉しいです。

途中、悲しい表現があります。

苦手な方はご注意ください。

あるところに、白い猫がいました。

その猫は、子供の時に母親とはぐれてしまい、道端で泣いているところを男の子に助けてもらいました。

そのまま猫は、男の子の家で飼ってもらえることになりました。

それから、猫と男の子とずっと同じ時をすごし

男の子が男の人になるのと一緒に育っていきました。

猫は幸せの中に居ました。

だけど猫は、不思議でたまりませんでした。

なぜ、男の子と私は同じなのに違うのだろうと。

だけど、男の子がガツコウという場所に行き始めてからずっと一緒には居られなくなってしまいました。

ベンキョウとかトモダチツキアイとかよく分からない事を始めたからです。

猫は男の子のカゾクにも可愛がってもらっていたから、とても幸せな生活をしているのでしょう。

でも、ずっと一緒にいた男の子いません。

猫はなにかぼつかりとした気持ちで居ました。

だけど、また前と同じようになると思ってた我慢していました。

でも、それから何年経ったでしょうか、男の子が家に戻ってこなくなりました。

猫の体がだんだんと動かなくなってきました。

ああ、もうすぐ終わってしまうのだなと、わかった。

それから少しして猫は終わりに向かっていき始めました。

暖かな日でした。

男の子だけがいない家で猫はゆっくりとゆっくりと眠りにつき始めました。

そして、よく聞こえない耳で、よく見えない目で男の子の存在を感じました。

猫は最後に男の子とあえて幸せでした。

男の子の姿を目に収めながら猫は最後に、次に会うときは同じで会いたいと思いました。

今度は同じ速度で一緒に過ごして生きたい。

そして、色の世界が黒に変わりました。

ある街に男の子と女の子が生まれました。

ふたりの家は隣同士です。

それは…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8213o/>

ある猫の話

2010年11月10日02時11分発行